

令和3年度 コンテナ苗の安定需給協定 選定結果

【育種区名】 対象森林管理署等	樹種	使用 年度	育成容器 の容量	苗木 規格	申請 者数	協定者 (所在市町村)	時期	協定数量 (本)
【中部育種区】 北空知、留萌北部、留萌南部、上川 北部、宗谷、上川中部、上川南部	カラマツ	令和 5 年度	150cc	1号	3	北振種苗(有) (雄武町)	秋	20,000
						(有)石田農園 (長沼町)	秋	47,000
		令和 6 年度	150cc	1号	3	北振種苗(有) (雄武町)	秋	20,000
						(有)石田農園 (長沼町)	秋	55,000
	トマツ	令和 4 年度	300cc	1号	3	(有)石田農園 (長沼町)	秋	19,000
						(有)石田農園 (長沼町)	秋	20,000
		令和 5 年度	300cc	1号	3	(有)石田農園 (長沼町)	秋	20,000
						(有)石田農園 (長沼町)	秋	20,000
		令和 6 年度	300cc	1号	3	(有)石田農園 (長沼町)	秋	20,000
						北振種苗(有) (雄武町)	秋	5,000
		令和 7 年度	300cc	1号	3	(有)石田農園 (長沼町)	秋	30,000
						北振種苗(有) (雄武町)	秋	10,000
		令和 8 年度	300cc	1号	3	(有)大坂林業 (幕別町)	秋	5,000
						(有)石田農園 (長沼町)	秋	50,000
		令和 5 年度	150cc	1号	2	(有)石田農園 (長沼町)	秋	10,000
						北振種苗(有) (雄武町)	秋	10,000
令和 6 年度	150cc	1号	2	(有)大坂林業 (幕別町)	秋	5,000		
				(有)大坂林業 (幕別町)	秋	7,000		

令和3年度 コンテナ苗の安定需給協定 選定結果

【育種区名】 対象森林管理署等	樹種	使用 年度	育成容器 の容量	苗木 規格	申請 者数	協定者 (所在市町村)	時期	協定数量 (本)
【西南部育種区】 石狩、空知、胆振東部、日高北部、日 高南部、後志、檜山、渡島	カラマツ	令和 5 年度	150cc	1号	2	(有)大坂林業 (幕別町)	春	65,000
		秋					25,000	
		計	90,000					
	令和 6 年度	150cc	1号	2	(有)大坂林業 (幕別町)	春	65,000	
	秋					30,000		
		計	95,000					
	トドマツ	令和 4 年度	300cc	1号	3	(有)大坂林業 (幕別町)	秋	10,000
							(有)谷口精光 園 (北斗市)	秋
	令和 5 年度	300cc	1号	3	(有)大坂林業 (幕別町)	秋	10,000	
						(有)谷口精光 園 (北斗市)	春	45,000
						秋	80,000	
						計	125,000	
	令和 6 年度	300cc	1号	3	(有)大坂林業 (幕別町)	秋	10,000	
						(有)谷口精光 園 (北斗市)	春	55,000
						秋	80,000	
						計	135,000	
令和 7 年度	300cc	1号	3	(有)大坂林業 (幕別町)	秋	10,000		
					(有)谷口精光 園 (北斗市)	春	85,000	
					秋	95,000		
					計	180,000		
令和 8 年度	300cc	1号	3	(有)大坂林業 (幕別町)	秋	10,000		
					(有)谷口精光 園 (北斗市)	春	95,000	
					秋	105,000		
					計	200,000		

令和3年度 コンテナ苗の安定需給協定 選定結果

【育種区名】 対象森林管理署等	樹種	使用 年度	育成容器 の容量	苗木 規格	申請 者数	協定者 (所在市町村)	時期	協定数量 (本)
【東部育種区】 網走西部、西紋別、網走中部、網走 南部、根釧西部、根釧東部、十勝東 部、十勝西部、東大雪	クリーン ラーチ	令和 5 年度	150cc	1号	3	北振種苗(有) (雄武町)	秋	15,000
						(有)大坂林業 (幕別町)	春	7,000
		令和 6 年度	150cc	1号	3	北振種苗(有) (雄武町)	秋	15,000
						(有)大坂林業 (幕別町)	春	8,000
	カラマツ	令和 5 年度	150cc	1号	3	北振種苗(有) (雄武町)	秋	30,000
						佐々木産業 (有) (遠軽町)	春	5,000
							秋	2,000
						計	7,000	
		(有)大坂林業 (幕別町)	春	37,000				
		令和 6 年度	150cc	1号	3	北振種苗(有) (雄武町)	秋	30,000
						佐々木産業 (有) (遠軽町)	春	5,000
							秋	3,000
	計					8,000		
	(有)大坂林業 (幕別町)	春	37,000					
	秋	7,000						
	計	44,000						
	トドマツ	令和 4 年度	300cc	1号	3	(有)大坂林業 (幕別町)	秋	30,000
						令和 5 年度	300cc	1号
		佐々木産業 (有) (遠軽町)	春	5,000				
			秋	4,000				
		計	9,000					
		(有)大坂林業 (幕別町)	春	15,000				
			秋	36,000				
		計	51,000					
令和 6 年度		300cc	1号	3	北振種苗(有) (雄武町)	秋	20,000	
					佐々木産業 (有) (遠軽町)	春	6,000	
						秋	4,000	
					計	10,000		
(有)大坂林業 (幕別町)		秋	41,000					
令和 7 年度		300cc	1号	3	北振種苗(有) (雄武町)	秋	20,000	
					佐々木産業 (有) (遠軽町)	春	6,000	
						秋	4,000	
	計				10,000			
(有)大坂林業 (幕別町)	秋	50,000						
令和 8 年度	300cc	1号	3	北振種苗(有) (雄武町)	秋	20,000		
				佐々木産業 (有) (遠軽町)	春	6,000		
					秋	4,000		
				計	10,000			
(有)大坂林業 (幕別町)	秋	50,000						

令和3年度 コンテナ苗の安定需給協定における主な提案内容等

協定者 (所在市町村)	主な提案内容等
(有)石田農園 (長沼町)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用土の作成から出荷まで、作業に即した検討・改善による簡略化・効率化に努め、コストの縮減を図る。</li> <li>・樹種別に専用段ボールを使用することにより、出荷の効率化と苗木の品質を確保。</li> <li>・育苗トレーによる出荷時の灌水が可能とする効率的な出荷方法を検討。</li> <li>・プラントプラグやプラグトレイへの播種試験により、コンテナ苗の新たな生産技術開発に取り組む。</li> <li>・緩効性肥料やマイクロコーティング肥料を施用し、適期適材の施肥管理を実施。</li> </ul>
(有)大坂林業 (幕別町)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低温庫の利用により、休眠苗の供給による出荷期間の拡充と資材の利用率を向上。</li> <li>・試作機としてコンテナ苗の搬送ロボットを導入し、搬送時の省力化を図る。</li> <li>・今後の需要拡大に対応するため、1粒播種による種子選苗技術を試験的に実施。</li> <li>・クリーンラーチの増殖方法について研究を行った結果、さし木効率が向上。</li> <li>・植栽後の保育作業の低減に資する、カラマツ大苗のコンテナ苗を試験的に生産。</li> </ul>
佐々木産業(有) (遠軽町)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生分解性の不織布を根鉢に施用し、出荷時の根崩れ防止とラップ巻の効率化を図る。</li> <li>・自社生産のピートモスを本格導入し、生産原価の抑制によるコスト縮減を図る。</li> <li>・幼苗得苗率の向上を図るため、遮光率やミスト噴霧量、採穂時期の調整を試行する。</li> <li>・玉葱ネットを活用した出荷により、造林地での苗木小運搬の効率化、さらに再利用によるコスト縮減を図る。</li> <li>・移植時期の早期による育苗期間の拡大を図ることで、出荷時期における得苗率の向上を見込む。</li> </ul>
(有)谷口精光園 (北斗市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散布時にドローンを試験的に活用することで、効率的な育苗方法を検討。</li> <li>・防風ネットの新設により、寒風害の軽減に資する生産設備を強化。</li> <li>・レールシステムの導入により、出荷時にラッピングされた苗の移動効率を向上。</li> <li>・カラマツの育苗期間短縮に向けた実証試験のため、当年性苗の生産体制を拡充。</li> <li>・溶出期間の異なる3タイプの緩効性肥料を配合した培土を使用する。</li> </ul>
北振種苗(有) (雄武町)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生分解性の不織布を根鉢に施用し、苗の間隔の工夫により下枝枯れの低減及び得苗率の向上に期待。</li> <li>・試験的に風力による種子選別を実施し、発芽率の向上が図られるか検証。</li> <li>・緩効性肥料を混合して施用により、下刈回数の低減が見込まれるとともにコストを縮減。</li> <li>・自動灌水タイマー及び流水計の設置により、生長の均衡が図られ、安定した出荷体制を確立。</li> <li>・むしろを活用したこん包により、ゴミが削減され、大量出荷への対応や運搬経費の縮減に貢献。</li> </ul>